

洋上風力発電に係るサプライチェーン構築と人材育成について

2024年8月2日
北海道洋上風力推進連携会議

北海道経済連合会

はじめに

北海道「2023年度洋上風力発電サプライチェーン構築・人材確保支援事業委託業務」にて調査した内容から、サプライチェーンや人材育成に関する情報を皆様に共有する。

○本資料の構成

調査に 1. あたって	洋上風力 2. サプライチェーン	洋上風力 3. 人材育成	4. まとめ		
1-1 事業の趣旨	2-1 業界構造	2-2 北海道の現状と 示唆	3-1 人材育成の現状 把握	3-2 道内における人 材育成の課題	4-1 今後の方向性
■ 事業の背景や調査項目 ■ 調査項目とアプローチ	■ サプライチェーンの概要 ■ 先行プロジェクトにおける地元調達状況	■ 期待される参入分野 ■ 参入ハードルが高い分野 ■ 道内での事業検討で感じる課題 ■ 道内企業のアンケート・ヒアリング結果 ■ 参入への示唆	■ 洋上風力関連人材の想定必要人数 ■ 先行地域における人材育成施設	■ 道内GWO取得者数の想定 ■ 道内トレセン検討の方向性	■ 課題対応策の展開プロセス

1-1. 調査の背景や調査項目

道内5海域が「有望な地域」の指定を受ける中、洋上風力産業の集積や雇用の創出といった経済効果の実現に向け、サプライチェーン構築に向けた課題の明確化を目的とした調査を実施した。

○調査の趣旨

年代	道内のタイムライン（想定）	他地域のタイムライン	本調査の位置づけ
2023年度	- 道内5海域 有望な地域へ指定 - 石狩港湾洋上風力の運開	第2R（新潟・秋田・長崎）事業者決定	
2024年度	道内5海域 促進区域に向けて協議会における合意形成の推進	第3R事業者決定（予定）	
2025年度	- 道内 促進区域の指定可能性 - 事業者公募の開始	第1R（千葉）工事着工	
2026年度	- 公募結果（事業者）の確定 - 工事に向けた準備開始	第1R（秋田2地区）工事着工	
2030年頃	- 発電所完成 - 運転（売電・O&M）開始	先行プロジェクト運転開始済	

- ✓ 道内5海域が洋上風力発電の有望な区域に指定
- ✓ 協議会により合意形成が進めば、早くも2025年度頃に事業者公募が開始
- ✓ 公募開始から1年後には事業者が決定
- ✓ 事業者決定後、約4年で工事開始、その2年後には発電所が完成・運転開始

- ✓ 洋上風力発電関連産業による経済効果の実現に向け、サプライチェーン構築等に向けた課題の明確化および打ち手の立案を実施

1-1. 調査の背景や調査項目

洋上風力産業の現状を把握するため、道内外の企業に対してアンケート・ヒアリングを実施し、道内企業の参入余地や課題を把握した。

○調査項目とアプローチ

		現状	参入余地	課題・課題解決の方向性
調査項目		業界構造・ 先行事業の成功要因	先行事例による地元調達状況・ 道内企業の参入期待分野・ 道内企業の検討状況	課題及び 課題解決の方向性
ア プ ロ ー チ	文献調査	Web調査・先行地域の調査報告書		産業連関表等のデータ
	道内企業調査		道内企業アンケート 600件	道内企業ヒアリング 23件
	道外企業調査	道外企業ヒアリング	道外企業ヒアリング	道外企業ヒアリング

2-1. 業界構造

洋上風力発電事業は、調査・製造・組立・O&M・撤去の分野毎にサプライチェーンが形成されるため、ヒアリング先は、各分野で実績を持つ企業とした。

○洋上風力サプライチェーンとヒアリングの窓口



2-1. 業界構造

先行プロジェクト（秋田・石狩）においては、風車部品へ参入した地元企業はいない状況である一方、2次部材（プレアッセンブリ時の鋼構造物・洗堀防止材）の製造・調達や工事は地元企業が参入していた

部品製品	先行事例（秋田・石狩）における状況	今後の意向（事業者側）
風車	ナセル・ブレード・タワー全て国外で製作・組立・輸送	国内企業からの調達可能性を調査
基礎	道外で製作・曳航（西日本・国外）	着床式のニーズは限定的・浮体式は可能性有
ケーブル	メーカー工場で製作（住友電工・古河電気工業）	限定的
変電設備	メーカー工場で製作	限定的

設置・工事	先行事例（秋田・石狩）における状況	今後の意向（事業者側）
風車	現地工事、プレアッセンブリ部材※で地元企業参入実績有	地元企業のニーズが高い
基礎	合番船で地元企業参入実績有（400 t クレーン船）	
ケーブル	ケーブルメーカー直営または協力会社にて実施	限定的
変電設備	地元企業にて土工事・電気工事の参入実績有	地元企業のニーズが高い

※秋田ではタワースタンド、石狩ではタワー架台・吊り具

O&M	先行事例（秋田・石狩）における状況	今後の意向（事業者側）
風車	風車メーカー・事業者にて実施（地域人材採用）	地域人材の採用・活用意向有
BOP	事業者等で実施	地域人材の採用・活用意向有

2-2. 北海道の現状と示唆

事業者（風車メーカー・ゼネコン・O&M事業者）が、道内企業に求める事項は下記の通り。

○道内企業の参入が期待される分野

サプライチェーン		事業者の考え
設置工事	陸上工事	✓ タワースタンド、タワー溶接、電気工事、ボルト締め作業等は、手順通りに作業を実施できるかが重要。風車部品を調達するほど厳密な要件とならず地元企業の参入を期待している。 ✓ 大型クレーン・多軸台車は大手企業へ依頼する可能性が高い。
	治工具 架台等	✓ タワー吊り具、仮設用のタワースタンド、ボルト等に関連する治工具は、参入余地があると考え
	洋上工事	✓ 道内マリコンには、サポート船での合番を求めたい。 ✓ タワー内電気・機械工事を実施できる道内企業を探したい。
O&M	風車メンテ	✓ 風車メーカーによる長期間のメンテナンス契約となるケースが殆どのため、地元人材を採用したい。 ✓ 緊急時対応として、溶接、補修、ロープワーク当の特殊スキルを有する道内企業と提携したい。 ✓ 欧州から輸送した部材に不具合があった際、対応してくれる部品メーカーを把握したい。
	BOPメンテ	✓ 道内企業とSPCを設立して、メンテナンスを実施したい。 ✓ 電気工事等を依頼できるサイト近くの事業者や水中作業ができるROV保有事業者と連携したい。
	船舶運用	✓ 警戒船等、地域の海を知っている漁業関係者・企業と連携したい。 ✓ CTVのメンテナンスをしてくれる道内企業をサイト近郊で探したい。

2-2. 北海道の現状と示唆

事業者（風車メーカー・ゼネコン・O&M事業者）が、道内企業の参入ハードルが高いと考える事項は下記の通り。メーカーにより、考え方に相違が見られる部分も一部あった。

○道内企業の参入ハードルが高いと考られる分野

サプライチェーン		事業者の考え
風車製造	ナセル	✓ 陸上風力のサプライヤーを中心に参入の可能性はあると思うが、品質・納期・価格での要求水準が高い他、大型化する洋上風力部品に対応するために、新たな設備投資を伴う可能性があるため、ハードルは高い。 ✓ 有望な地元企業は、風車メーカーからTier1に紹介し、Tier1等が地元企業と契約する。ナセルフレーム等の鋼構造物や電気関連部材は、道内企業の参入可能性が高いと考える。
	ローター	✓ ナセルのように、組立工場近郊に産業集積が起こる訳ではなく、大規模工場で作成後、すぐに輸送できる場所に立地する形となる。
	タワー	✓ 現在は、アジア・欧州の工場で作成して日本に輸送しているが、今後、日本国内の受注が増加した場合、工場新設も検討対象となるが、自治体・港湾のポートセールス等が重要な判断材料となる。
BOP製造	基礎	✓ 基礎メーカーとしては、モノパイル、ジャケット基礎の製作拠点は、既に西日本に構築済み。 ✓ 石材供給等は、JIS等の品質基準を満たせば、輸送コストの観点からも道内企業の参入が可能と考える。 ✓ ゼネコンとして、基礎の設計は自社で行い、製作は外注している。外注先として道内企業の可能性はあるが、その際、要件として、重耐塩、塗装対応、工場の設備、広さ、技術力、実績等を求めることになる。
	ケーブル	
	変圧器	✓ ヒアリング未実施

2-2. 北海道の現状と示唆

事業者（風車メーカー・ゼネコン・O&M事業者）が、道内での事業検討にあたって感じる課題は、下記の通りとなった。

●道内での事業検討にあたって感じる課題

- サプライチェーン構築のためにも、事業者間のマッチングの場をセットすべきという指摘有り
- 北海道への新工場建設は、自治体からのポートセールスの内容・タイミングも重要
- 入札後、運転開始まで5年かかるため、時間軸を考慮した効果的な人材活用策が必要

- 道内企業と接点が無いため、他地域（秋田・青森・新潟・北九州・千葉）のように、**マッチング等の接点の場を設けてほしい**
- 風車の大型化にあわせて、風車の組立において地元企業に求める技術的な要求水準が高まる可能性がある（人材育成の必要性）
- 組立工事の際、必要資格（GWO）の取得に本州まで移動する必要がある、スケジュール調整が大変だった。**工事やO&Mを実施するにあたり、アクセスの良いGWO認定施設が必要**
- 新工場（浮体式基礎・ブレード・タワー）を北海道に建設する可能性は0では無いが、年間稼働が必要になるため、冬の操業をどうするかといった問題や、現在の入札制度上、実績の無い工場での稼働が評価されない可能性がある点をどう判断するかという問題がある。また、投資が必要になる中、自治体からのポートセールスの内容やタイミングも重要
- **冬期の作業ができないため、通年で仕事ができる環境整備を考えるべき**
- **洋上風力のプロジェクトは、入札後、運転開始まで5年かかる等、人材確保と活用のタイムラグをどうするか、地域で考えるべき**

2-2. 北海道の現状と示唆

道内企業からのアンケート・ヒアリング結果は、下記の通り。

●風力発電事業関連への実績

➤ 先行事例の石狩では様々な分野に参入、陸上風力発電での実績を持つ道内企業は多数

- 石狩洋上風力発電事業では、電気工事、土木工事、風車組立、架台製作等で多くの道内企業が参入。
- 道内参入企業には、道外他地域からの引き合いもある状況。
- 他にも過去に国内陸上風力関連事業者から受注を受け、タワー等風車本体の製造や、関連工事、メンテナンスに関わった実績のある企業は多数。
- 洋上風力はその規模、立地などの面から陸上風力と異なる点もあるが、組立や工事等、陸上風力の実績・知見を活かせる面も多く、こうした企業の今後の参画が見込まれる。

●道内企業の参入のきっかけ、課題

➤ 既存取引先からの声かけが中心、参入の有無に関わらず情報不足が課題

- 既存取引のある風力関連の川上産業からの声かけにより参入するケースが大半。自社独自の販路開拓は非常にハードルが高いことが伺える。
- アンケートでは、参入企業、未参入企業ともに、「技術力・専門性及びそれらに係る情報が不足」、
「情報が不足していて検討ができない」が課題との回答が多い。
- また参入企業からは、「提供できる技術はあるが資金が調達できない」、未参入企業からは「適切な情報や技術を提供するカウンターパートがない」ことが課題として挙げられた。
- 室蘭ではMOPAがプラットフォームの役割を果たしている。

2-2. 北海道の現状と示唆

道内企業からのアンケート・ヒアリング結果は、下記の通り。

● 参入意向

➤ 参入意向は高いものの、積極的な設備投資までの機運は醸成されていない

- 参入企業・未参入企業とも、参入意欲、関心等は高いものの、実績・知見を活かして既存の設備・人員で対応できる範囲を想定しているケースが多く、設備投資等により積極的に受注拡大を目指している企業は一部に限られる。
- 背景として、具体的な事業計画が見えていない段階である点、自社技術・サービスがへのニーズが把握できていない点などから、リスク回避の姿勢が働いているものと思慮。
- 未参入企業からは、陸上風力の知見がどの程度活かせるのか不安視する声も聞かれた。
- 一部の企業からは、関連する技術・サービスを有していても、既存事業で人手が慢性的に不足している中、新規事業への優先度がそれほど高くない旨の回答も聞かれた。

● 参入や事業拡大に向けた支援策

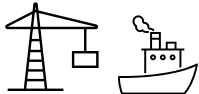
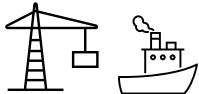
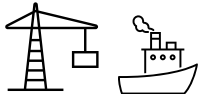
➤ 複合的な側面支援策が求められている

- アンケートでは参入企業、未参入企業ともに、「設備投資等の補助事業」、「販路開拓・関連企業とのマッチングの機会」、「最新技術や市場に係る情報提供」、「必要な資格取得の情報・支援」、「人材育成に関する情報・支援」、「地域でのプラットフォーム等の体制作り」等が多く挙げられた。
- 未参入企業からはこれに加え「事業領域の専門家の紹介・支援」の回答が多かった。
- 道内企業へのヒアリングでは、これを裏付ける形として、発電事業者やEPC事業者とのマッチングや情報交換の機会、人材確保・育成支援、設備投資等の補助、地域プラットフォーム等の体制作り・強化等に関する要望が挙げられた。

2-2. 北海道の現状と示唆

アンケート・ヒアリング結果から、参入促進や新工場立地には、情報提供やマッチング機会の創出や、道内港湾の在り方を広くPRする必要性といった示唆を抽出した。

○道内企業の参入期待分野と示唆

サプライチェーン		事業者の考え	道内企業の声	示唆
風車製造	ナセル	✓ メーカー認証等ハードルは高い	✓ 陸上風力におけるタワー製造やナセルカバー、シャフト等の納入実績有	情報提供（セミナー等）やマッチングの機会の創出により、道内調達率の向上が見込まれる 
	ローター	✓ プロジェクト受注増加の蓋然性が高まれば新工場立地の可能性有	✓ ぜひ自社工場を見学してもらいたい	
	タワー		✓ 情報が不足していて検討できない	
BOP製造	基礎	✓ 西日本で工場増設等対応済	✓ ジャケットの部分的な製作に参入できるならしたい	プロジェクト進捗・メーカー意向を踏まえた道内港湾の在り方を事業者確実に伝えていくことが、道内サプライチェーン構築の足掛かりになる可能性有り 
	ケーブル	✓ 国内にない浮体式の検討が進めば基礎製造拠点を作れる可能性有	✓ 浮体式の鋼構造物に期待している	
	変圧器			
設置工事	陸上工事	✓ 道内企業の参画を求めたい	✓ 陸上風力や先行事業にて実績有	プロジェクト進捗・メーカー意向を踏まえた道内港湾の在り方を事業者確実に伝えていくことが、道内サプライチェーン構築の足掛かりになる可能性有り 
	治工具架台等	✓ 大型クレーン・多軸台車は大手企業へ依頼する可能性が高い	✓ 人材確保の必要性はあるが、今後のプロジェクトにも参入希望	
	洋上工事	✓ サポート船での合番を求めたい ✓ タワー内電気・機械工事を求めたい	✓ 電気・機械工事の受注を期待	
O&M	風車メンテ	✓ なるべく地域人材を採用したい	✓ 陸上風力の実績有	プロジェクト進捗・メーカー意向を踏まえた道内港湾の在り方を事業者確実に伝えていくことが、道内サプライチェーン構築の足掛かりになる可能性有り 
	BOPメンテ	✓ 地元企業との連携可能性も大	✓ 洋上風力のメンテナンス参入希望有	
	船舶運用	✓ 地域の海を知っている漁業関係者・企業と連携したい	✓ SEP船メンテナンスの参入希望有	

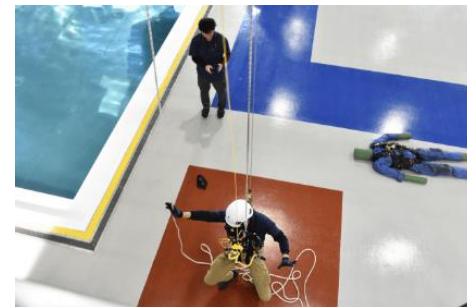
3-1. 人材育成の現状把握

洋上風力発電事業の工事やO&Mに従事する作業員は、GWOが提供する訓練の受講が必要となる。今後、プロジェクトが進行するにつれ、北海道でも当該訓練設備の必要性が高まることが想定される。

○O&M関連企業等による想定必要人材数

ソース	概要
マースク トレーニング	● 道内の将来的なO&M関連の人材需要は約2万人 ● 今後道内で14.5GWの洋上風力発電が可能：1GWあたり1,500人の計算
日本 再興戦略	● 海洋技術者を2,000人（2015年）から2030年には10,000人へ
日本財団	● 海洋開発技術者を2,865人（2020年）から2030年には8,600人以上へ
事業者A	● メンテナンス437人（2022年）から、2030年には1,333人＋トラブル対応1,600人、運営管理1,600人の計4,533人（最大6,750人） ● 1基×1チーム5人×作業時間1週間×年間30週稼働＝1チームあたり年間30基 ● 洋上はおおよそ1チーム年間15基（半分）
JWPA	● O&M分野は2030年2,300人、2040年10,700人、2050年19,000人と推計 ● 2030年：技術職約 6,500人、技能職約 9,500人（うちO&M 2,300人） ● 2040年：技術職約14,000人、技能職約24,500人（同 10,700人） ● 2050年：技術職約17,000人、技能職約31,500人（同 19,000人）

※ヒアリング先によって、想定する必要人員数に相違有

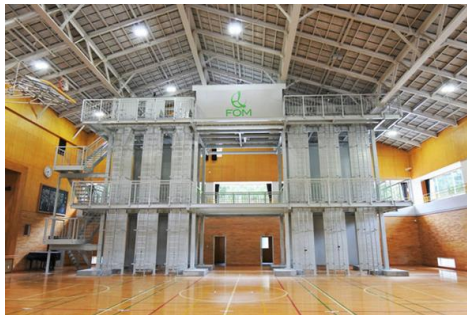


（出所）ウィンド・パワー・トレーニングセンターHP
ジラフワークHP

3-1. 人材育成の現状把握

道外の既存トレーニングセンターは、地域性や既存プロジェクト等を踏まえ、各地域でコンセプトの異なる運営方針となっている。

○先行地域における人材育成施設の例

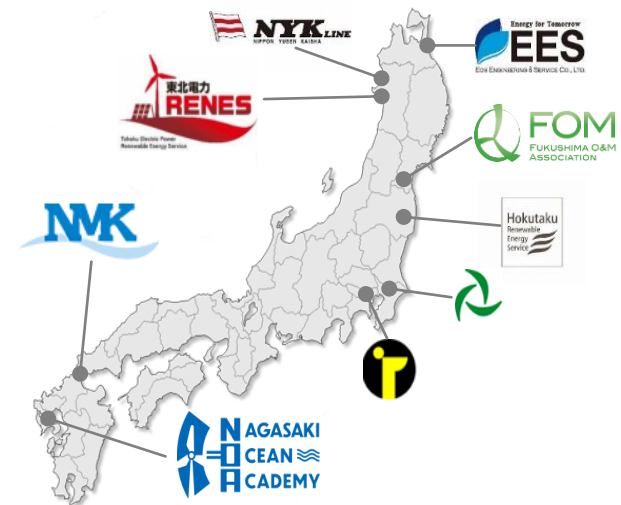


コンセプト

概要

先行する人材育成施設

初期技術者育成	✓ ベーシックトレーニングのみを提供
中堅技術者育成	✓ ベーシック+上級救助訓練等の追加カリキュラムも提供
上級技術者・エンジニア育成	✓ ブレード修繕等、安全以外の技術カリキュラムも提供
研究者・管理責任者育成	✓ ファイナンス含む全体マネジメントを担う高度人材を育成
自社育成特化	✓ 自社社員の教育を優先した育成プログラムを構築

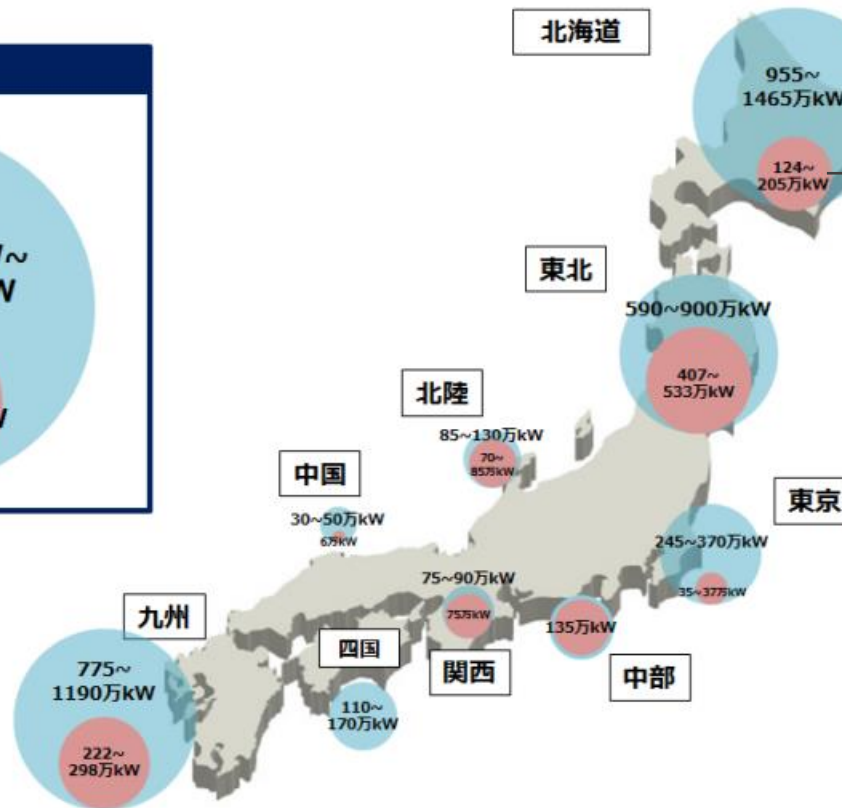
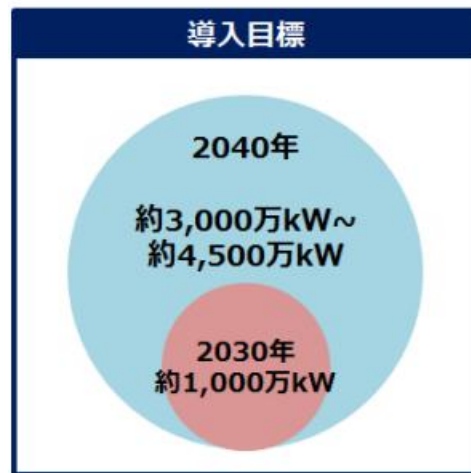


(出所) FOM、NVK、東北電力RENES、NYK、EES、北拓、ジラフワーク、ユーラスエナジーHD 各HP

3-2. 道内における人材育成の課題

道内では、2030年までに1,500人以上がGWOを受講することが想定されるが、現在トレーニングセンターが無く、事業者の利便性や道内企業の洋上風力発電への参入に支障が出る可能性がある。

○GWO取得者数の想定



○2030年のGWO取得者数

区分	想定受講人数
建設	1,527人
O&M	169人

※ヒアリングにより、下記を基に計算

建設：1.232人/MW

O&M：1.364人/基

風車：10MW/基、2030年に124万kW導入

(出所) 洋上風力産業ビジョン（第1次）、2020年12月

3-2. 道内における人材育成の課題

道内にトレーニングセンターを検討する場合の方向性について、他先行施設へのヒアリングから下記の通り整理した。

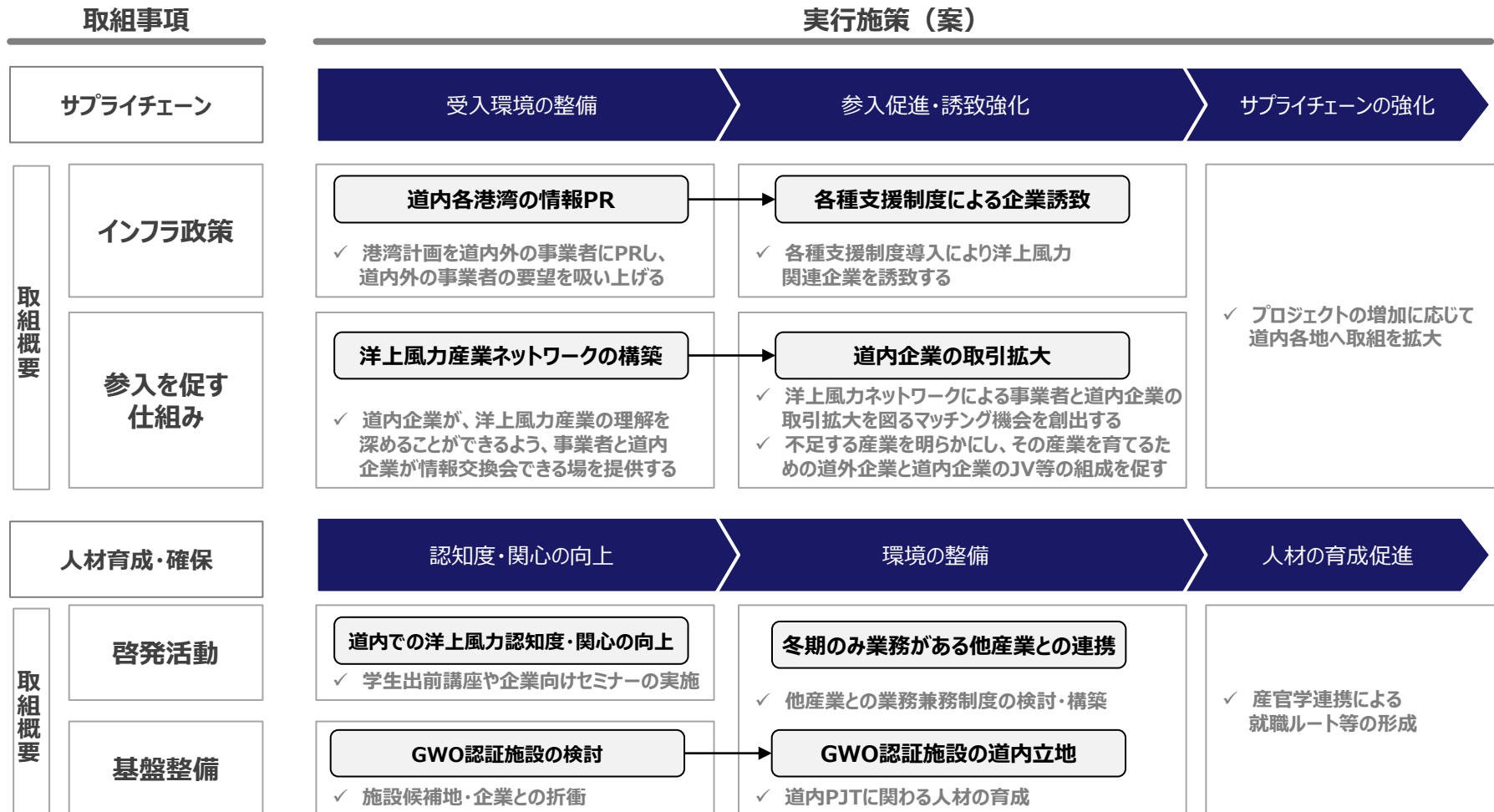
○道内トレセン検討時の方向性

項目	先行施設へのヒアリングから整理した方向性
目標 コンセプト	✓ 一般技術者の最低限のGWO受講のみ提供すると、収支が合わなくなり運営していけない可能性が高い。 ✓ 長崎海洋アカデミーのような高度人材の育成や、FOMのようなエンジニア・上級技術者の育成も検討する必要があり、道内学術機関との連携も検討する必要がある。
アクセス	✓ 多様な企業からの受講者を受け入れるためには、交通・宿泊・飲食等について便利な立地が望ましい。
施設 仕様	✓ 既存トレセンは、自社遊休地の活用、既存校舎跡地の買取、火力発電所の見学施設の流用、中古ユニットハウスの利用など、初期投資を抑えるアイデアを実行している。 ✓ 道内での立地においても、既存施設の流用等を念頭にトレセンの整備を検討する方が現実的。
Sea Survival 対応	✓ 施設建設費および運営費に大きな影響が出るが、道内人材の安定供給の観点から必要。
その他	✓ 施設運営のノウハウや、トレーナーの確保・育成の必要もあることから、マースクトレーニングやClassNK、FOMなどと連携する方法を検討する必要。

4-1. 今後の方向性

本調査で把握した課題解決に向け、サプライチェーン構築と人材育成毎に取り組むべき方向性の展開プロセスは、下記の通り。

○道内サプライチェーン・人材育成施策（案）の展開プロセス



2024年9月3,4日に札幌で開催されるGOWSにて、道内企業の合同出展および事業者と道内企業のビジネスマッチングを実施予定



GLOBAL OFFSHORE WIND SUMMIT JAPAN 2024〔札幌〕出展企業 募集 のご案内

北海道経済連合会では、2024年9月3日～4日に札幌コンベンションセンターで開催される洋上風力発電イベント「GOWS JAPAN 2024」に、北海道委託事業の一端として共同出展を行い、洋上風力産業における北海道企業の参入促進・取引拡大を支援します。

< GLOBAL OFFSHORE WIND SUMMIT JAPAN 企業共同出展ブース 概要 >

- ◆会 期 令和6年（2024年）9月3日（火）～ 4日（水） 10:00～18:00
- ◆会 場 札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1）
- ◆主 催 令和6年度洋上風力発電サプライチェーン構築・人材確保支援事業委託業務受託コンソーシアム
- ◆事務局 北海道経済連合会

< 出展募集内容 >

1. 出展内容
 - ・主催者にて用意する合同出展ブースにて、出展企業毎にポスター、製品模型、パンフレット、モニターでの動画配信等を実施していただきます。
2. 募集対象
 - ・洋上風力発電関連サプライチェーンに興味のある道内企業。
 - ※サプライチェーンは、洋上風力発電事業における「調査・開発」「製造」「組立・設置」「運用・メンテナンス」の全てを指します。
3. 募集企業数
 - ・6社程度
 - ※応募多数の場合は申込内容等を考慮し、総合的に判断して決定します。
4. 小間仕様（予定）
 - ・小間サイズ（共同ブース全体）～24㎡（間口6m×奥行4m）
 - ・基本設備 ポスター貼付用の後壁（壁高約2.4m）、社名版、展示台（W1～2m×D0.5m）
 - ※申込状況により一部仕様を調整（縮小）する場合がありますので予めご了承ください。
5. 出展経費
 - ・出展料及び基本装飾料は無料。
 - ・出展品の製作、説明員の交通費・宿泊費、荷物運搬費等の経費は出展者負担となります。
6. 申込方法
 - ・出展申込書に必要事項を記載の上、下記までメールにてお申し込みください。
 - ・郵送物がある場合は、下記問い合わせ先にご郵送をお願いします。

< 申 込 先 > 北海道経済連合会 大菅生 E-mail: ogayu.atsushi@dokeiren.gr.jp

< 申込期限 > 令和6年（2024年）8月9日（金）17:00

< GLOBAL OFFSHORE WIND SUMMIT JAPAN 概要 >

Global Offshore Wind Summit-Japan（略称：GOWS-J）は、日本における洋上風力発電の大きな可能性と強力な産業基盤を活用することを目的とした日本を代表する洋上風力発電イベントです。このイベントには国内外の洋上風力発電市場から700名以上の参加者が集まり、専門家の講演、ディスカッション、展示および交流で構成されています。また、このイベントは開催地自治体と協力して、洋上風力発電の地域合意形成に貢献します。

◆主 催 一般社団法人日本風力発電協会、Global Wind Energy Council

◆規 模 来場者数 700人程度（過年度実績）

※その他詳細は、公式HPをご確認ください。 <https://www.gows-j.com/>



< 問い合わせ先 > 北海道経済連合会 ゼロカーボン・産業立地G
〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目3番地 札幌MNビル6階
TEL: 011-211-5227 / URL: <https://www.dokeiren.gr.jp/>

< 委託元 > 北海道経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン産業課



洋上風力発電 ビジネスマッチング

参加費無料！

道内企業の技術・製品・サービスを洋上風力産業へ！

主催：北海道令和6年度洋上風力発電サプライチェーン構築・人材確保支援事業委託業務受託コンソーシアム
事務局：北海道経済連合会



2024年9月4日（水）時間 10:00-16:00（予定）

開催形式

事前調整型マッチング

道内企業（提案企業）のエントリーシートを
発注企業が事前に選考する予約面談制です。

1対1の個別面談

1社対1社の対面によるクローズド面談です。

洋上風力関連企業

発電事業者

風車/基礎製造メーカー

EPC事業者

O&M関連事業者

ご参加いただく企業様と現在調整中

会場

札幌コンベンションセンター

住所：札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
札幌コンベンションセンター
2階 206・207会議室

募集する提案企業

洋上風力発電事業
サプライチェーンへの
参入を検討する道内企業

ビジネスマッチングまでの流れ

STEP01

エントリーシート提出

・8月9日（金）までにエントリー
シートをご提出ください。

STEP02

相手方企業による選考

・エントリーシートに基づき
発注企業が面談企業を選考。

STEP03

個別面談実施

・対面での面談となり
ます。

エントリーシート提出方法

・エントリーシートに必要事項を記載の上、下記までメールにてお申し込みください。

< 申 込 先 > 北海道経済連合会 大菅生 E-mail: ogayu.atsushi@dokeiren.gr.jp

< 申込期限 > 令和6年（2024年）8月9日（金）17:00

注意事項

・事前マッチング制のため、面談に当たらない場合があります。予めご了承ください。

問合せ先 北海道経済連合会 ゼロカーボン・産業立地G

TEL 011-211-5227 E-mail: ogayu.atsushi@dokeiren.gr.jp

委託元 北海道経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン産業課

令和6年度洋上風力発電サプライチェーン構築・人材確保支援事業